

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370200521
法人名	有限会社ティム
事業所名	グループホーム 喫茶去
訪問調査日	平成 19 年 12 月 3 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 14 日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4370200521		
法人名	有限会社 ティム		
事業所名	グループホーム 喫茶去		
所在地	熊本県八代市田中西町11-2 (電話) 0965-53-1581		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本県熊本市上通町3-19-402		
訪問調査日	平成19年12月 3日	評価確定日	平成19年12月14日

【情報提供票より】(H19年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	6人	常勤	6人, 非常勤 0人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	28,750 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	5 名	男性	0 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84,4 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂本病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中にある木造のホームは近隣に違和感なく溶け込んでいる。代表者の高齢者住宅に対するこだわりが建物の至るところに見られ、落ち着いた穏やかな空間を演出している。介護に関する信念と熱意も全職員に浸透しており、「昔ながらの普通の暮らし」を実践し、5名の入居者と家族のような信頼関係が構築されている。毎日、新聞記事から抜粋した「もぎたて話」は社会との接点を忘れないようになど、様々な場面で入居者を尊重する姿勢が窺える。重度化していく入居者の非常災害時などの場面において、地域との連携が必要と考えられるため、運営推進会議の定期的な開催による協力要請等が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>緊急時の対応に関して定期的なミーティングや研修が開催され、落ち着いた対応が出来るようになったとの成果が出ている。また、確実な申し送りや事故・ヒヤリハット報告書の整備により、入居者の傾向が分かり、今後のケアへと繋がられている。地域との交流に関しても事業所の行事への参加により、ホームを理解してもらう機会の取り組みとして評価される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は自らのケアを見直す機会として、外部評価は客観的にホームを見直す機会と捉え、自己評価は管理者を中心に行われた。今後は、全職員で取り組み、それぞれ提供するサービスについての見直しや課題改善への取り組みが期待される。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>代表者と行政との連絡体制は確立されており、運営推進会議は昨年度は2回開催されているものの、議題や開催において定着していない。今後は計画的な開催が期待される。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に入居者の心身の状況やホームでの暮らしぶり等について報告しており、月に1回便りも送付している。介護計画作成時、事故・ヒヤリハットの発生時には必ず家族に報告し、意見や要望を聞き入れる姿勢が窺える。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>住宅地の中に位置しており、近隣との挨拶や会話が行われ「普通の家」でありたいというホームの方針が実践されている。入居者の身体機能低下により地域の行事や散歩等に出かけることが難しくなっているため、ホーム主催の行事を、地域の方の参加により交流を図るなどの取り組みにより、地域との連携が確立されることが期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に代表者が思いをこめた「昔ながらの普通の暮らし」を目指し、笑顔の生まれる暮らしを実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者職員共に理念を共有し、日々の暮らしを大切に、理念の実践に向け努力している。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	1軒の家として自治会に加入し、挨拶・会話を交わしている。職員が同じ地域の住人のため、おすそ分けや自然な隣人関係が出来ている。盆踊り会を企画し、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を理解し、自らを見直す機会ととらえ、評価結果について改善策を検討し、取り組んでいる。		自己評価は、職員一人ひとりのケアの振り返りの機会となるよう、全職員で取り組まれることが望まれます。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域・行政・入居者・家族・職員等のメンバーでこれまで2回開催し、ホームの設立、状況報告等をしている。		メンバーの都合により開催が難しいようです。地域・行政との連携を図るためにも定期的な会議の開催が期待されます。

グループホーム 喫茶去

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは密に連携を図っており、情報交換にも努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話連絡等で入居者の状況報告を行っている。請求書送付時に入居者のホームでの暮らしぶり等を書いた手書きの手紙を添えている。入居者毎のアルバムを作成し、各居室に置き、話題を提供し、喜ばれている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、意見や要望を聞くよう努めている。家族の意見等には迅速に対応し、運営に反映するよう努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はなく、退職については、入居者とよく話し合う等、影響がない様配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が模範となり、日々入居者とのコミュニケーションを学んでいる。研修参加後は報告し、共有を図っている。		経験年数を考慮した外部研修等への参加も望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは市の会議等で情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、家族や本人と丁寧な話し合いを重ね、2～3時間の来訪や宿泊体験等を行い、馴染んでもらい、入居してもらうよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の大先輩としての尊敬の気持ちを持って、多くを語り合い支えあう人間関係を大切にしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしの中で、入居者と話し合うことから、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、言動やしぐさ、表情、サインから汲み取るように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者本人や家族の意向を聞き、職員の情報を加味し、介護計画を作成している。作成した計画は本人・家族に説明している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年に1回見直し、現状に即した計画を作成している。途中、変化が生じた場合は、随時に見直しをしている。個々の介護記録をつけ、職員全員で共有し、介護計画に繋がる記録に努めている。</p>		

グループホーム 喫茶去

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の要望により、柔軟な対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医や本人・家族の希望のかかりつけ医の医療を受けるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態変化に伴い、本人や家族・主治医との話し合いで対応するようにしている。ケースバイケースによって対応や方針が変化する場合もある。		本人・家族・職員・かかりつけ医等と話し合い、重度化した場合の対応の指針等の作成の検討が望まれます。
や					
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライドやプライバシーは尊重し、言葉かけや対応に配慮している。個人情報の守秘義務は徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな毎日の流れはあるが、入居者の心身の状態や習慣などに合わせ、それぞれのペースを最優先している。		

グループホーム 喫茶去

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は菜園の野菜を使い、入居者の嗜好や好み、季節感を考慮しながら、職員がたてている。準備から後片付けまで入居者と共に行っている。食事は、入居者と職員にとって充実したひとときとなっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しんでもらえるように、入浴剤・音楽や、職員等のおしゃべり等環境に配慮している。入居者は全員入浴が楽しみである。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの力量に応じて家事や趣味を尊重し、何が喜びと感じてもらえるか考慮し、一人ひとりに生活歴を活かした支援を心がけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭の散歩、犬との交流や買い物・ドライブ等、体調や季節・天気を考慮して出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が職員の目の届かない場所にあるため外からの進入防止・安全のため施錠しているが、鍵をかけることの弊害は、全職員が認識している。入居者とは声を掛け合い外出する関係ができています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回防災訓練を実施している。応急手当、初期対応についての定期的な話し合い、研修は行っている。		

グループホーム 喫茶去

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は必要な分摂取できるよう支援している。食事や水分摂取量は大まかに記録している。体重の増減についても思慮に入れて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や庭には花が満ちており、内部のインテリアも個性的で、家庭的で落ち着いた雰囲気である。共有空間にはソファやダイニングテーブル・椅子などで思い思いに過ごせる場所が確保されている。高い天井で明るく、換気や室温・臭気にも配慮がされており、清潔で穏やかな環境である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・本人と相談して、馴染みの家具や生活用品が持ち込まれている。お位牌や、写真等が飾られ、個性的な居室作りの支援がされている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	喫茶去
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	八代市田中西町11-2
記入者名 (管理者)	高橋 裕子
記入日	平成 19 年 11 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平凡な『日常』の中に、暮らしは存在すると思います。普通の暮らし、笑顔の生まれる暮らしを目指しています。特徴は『普通の家』です。		『普通の家』であり続けたいと考えています。
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し、日々の暮らしを大切に考え、実践しています。		理念を共有し、実践したいと考えています。
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域に対して、喫茶去の普通の暮らしを理解していただけるよう、機会あるごとに話しをしています。		家族にも地域にも、理解を深めていきたいと考えています。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の挨拶が基本です。自然に、笑顔で会話が交わされるようになり、頂き物の交換をしています。頂くほうが多いのですが、あり難いと感謝しています。		ご近所とは、今までどおり、普通のいいお付き合いをしたいと考えています。
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	スタッフの殆どが、事業所と同じ地域の住人なので、自然に地元の人との交流が来ています。		喫茶去が地域から孤立することなく、交流を深めていきたいと考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方からの相談は、入居に関わりなく、代表者が受けています。相談できる場所、相手としての信頼を得ています。		地域からの要望には、明るく応えていきたいと考えています。代表者への講演依頼の話もあります。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、自らを見直すチャンスとして、外部評価は、外部の人の目を見た喫茶去を見直すチャンスとして考えています。評価後、スタッフ全員で話し合いの機会を持つようになっています。		自己評価・外部評価を、喫茶去を見直すチャンスとして考え、活かしていきたいと考えます。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域と行政と利用者と家族と事業所が喫茶去に集まり、一緒に話し合い、考えるチャンスを作る場です。色々な意見を真摯に受け止め、喫茶去の改善に活かしたいと考えています。		運営推進会議は、地域や行政をつなぐパイプの役割も果たしています。意見をいただき、サービスにも活かしたいと考えます。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者とは、信頼関係のもてる距離で連携しています。喫茶去からの質問などには、迅速に対応していただき、喫茶去への要望質問にも迅速に応えています。代表のコンサートにも、担当課から足を運んでいただきました。サービスの質の向上にも、ともに取り組んでいける環境にあると思います。		市とは、今後もいい距離で連携していきたいと考えています。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会の中での必要性は感じています。現在、喫茶去に該当する入居者はいませんが、学ぶ機会を持ちたいと思います。		権利擁護については、研修会などで勉強していきたいと考えています。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連法案については勉強不足です。利用者の虐待についてはあってはならないことです。見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めています。		虐待防止については、研修会などで勉強していきたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約については、事前に十分な説明を行い、理解と納得を頂いていると思います。</p>		<p>契約や解約は、理解と納得が前提となるよう努めて生きていきたいと考えています。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が、遠慮なく不安、不満を表現できる環境づくりを心がけています。受け取った気持ちは、家族にも伝え、共有し、改善に向け努めています。</p>		<p>利用者の意見が運営に反映されるよう、努めていきたいと考えています。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の様子、特に変化は、その都度、家族に電話で連絡しています。</p>		<p>家族への報告は、その都度、遅滞なく実施していきたいと考えています。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時に、意見を聞くように努めています。頂いたご意見は、全員で共有し、今後の運営に反映させるようにしています。</p>		<p>家族の意見が運営に反映されるよう、努めていきたいと考えています。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回は、時間をつくって意見を聞いています。今後の運営にも反映させるようにしています。</p>		<p>職員の意見も運営に反映されるよう、努めていきたいと考えています。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況は、日々変化するので、必要に応じ柔軟に対応しています。</p>		<p>状況に応じた柔軟な対応が出来るよう、努めて生きていきたいと考えています。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は、ありません。退職については、利用者によく話し合うなどの、影響の出ない配慮を行なっています。</p>		<p>職員の入れ替わりに寄る影響は、最小限にとどめられるよう、配慮していきたいと考えています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表がスタッフの模範となり、利用者とのコミュニケーションを学んでいます。スタッフにとっての一番大切なことを、毎日の暮らしの中で、育てていく努力をしています。		職員を育てる取り組みは、毎日の暮らしの中でも行っていきたいと考えています。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流は行なっていません。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	よく話し合うことで、ストレスを溜め込まないよう努めています。思っていることを表現することは、スタッフにも必要なことだと考えます。		ストレスを溜めないよう、話し合いを重視していきたいと考えています。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの懸命な姿を、しっかりと見つめ、その頑張りに感謝しています。その気持ちが、スタッフのやる気と向上心を育てていると思います。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至る前には、入念な話し合いや、訪問を行なっています。その気持ちを受け止める努力は惜しみません。		初期に築く本人との信頼関係は、話し合うことを基本にして、大切に考えていきます。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との話し合いも、利用者と同様です。お互い納得のいくまで話し合っています。		初期に築く家族との信頼関係は、話し合うことを基本にして、大切に考えていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人には、今何が一番必要か？ 喫茶去で出来ることは何か？ 出来ないことはどう支援したらいいか？ 十分な話し合いを重ね、対応しています。		その時、必要な支援について、話し合うことを基本にして、見極める努力をしています。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と話し合い、2～3時間、遊びに来ていただいたり、試しに1泊していただいたり等、様子を見ながら入居を考えています。		本人、家族と一緒に、よりよい方法を工夫し考えていきます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩である入居者の皆さんから、学ぶべきことはたくさんあります。スタッフ全員、尊敬の気持ちをもって一緒に過ごしています。支えあう人間関係は、大切にしています。		たくさん語り合うことをとおして、支えあう関係を築いていきたいと考えています。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の皆さんにとって、一番大切な存在が家族です。家族の支えなしに、入居者の皆さんを支えることはできません。一緒に支えあえる仲間としての関係を大切にしています。		本人、家族、スタッフが一緒に支えあえる関係を築いていきたいと考えています。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	喫茶去を利用していただくことで、入居者と家族の絆が強まるような支援を心がけています。		喫茶去を、本人と家族が絆を深めるチャンスにさせていただける支援をしていきたいと考えています。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、馴染みの関係が途切れないよう努めています。		馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援していきたいと考えています。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフが、間に入ることで、入居者同士の会話が生まれたり、係わり合いが生まれたり出来るように努めています。		利用者同士が、いい話し相手となれるよう、支援していきたいと考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、家族との絆は大切にしています。		退去後の家族との関係も、大切にしていきたいと考えています。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、入居者と話し合うことから、希望や意向を把握するように努めています。		入居者と話し合い、また言動からのサインを見つめ、本人の思いや意向を把握していきたいと考えています。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、家族から話を聞き、また、入居後は本人との話し合いの中で、生活歴、生活環境を把握するよう努めています。		本人の生活歴、生活環境の把握は、重要事項として考えています。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりに合った、一日の過ごし方やその時々々の精神状況には心を配っています。有する力は、日によって違う場合もありますので、見守る目を大切にしています。		本人の現状を把握することは、暮らしの中で大切なことだと考えています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人に合った介護計画を作成できるよう努力しています。家族の意見、本人の気持ちを尊重して、明るいプランを立てています。		介護計画が、より本人に合ったものとなるよう、家族や本人の意向を尊重していきたいと考えています。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行い、現状に即した計画を立てています。		介護計画は、本人の現状に即したものになるよう見直していきたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個々の介護記録をつけています。全員が目を通し、情報を共有しています。実践や介護計画に活かされています。		介護記録は、様子、気付き、工夫などを記録することで、スタッフが情報を共有でき、実践に反映できる材料として考え、介護記録の見直しにも活かしています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況の変化には、話し合いでどのような支援が必要か話し合っています。柔軟な対応に心がけています。		本人、家族の状況に応じて、話し合いをする中で、柔軟な対応をしてきたいと考えています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じた地域資源の活用は考えていません。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの利用は行なっていません。今の入居者に対しては、必要を感じていません。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協議は行なっていません。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に添った医療が受けられるように支援しています。		かかりつけ医との連携は、大切に考えています。協力体制をしっかりとっていききたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医との連携が取れています。		専門医との連携も大切に考えています。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	今の入居者に関しては、看護職との連携はありません。必要に応じて連携のと取れる体制はあります。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に関しては、必要な場合、必要なだけの入院をしています。早期退院に向けては、病院、本人、家族と話し合って対応しています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、本人、家族、主治医との話し合いで対応していきます。ケースバイケースなので、一概に言えません。最後の家でありたいという想いは、共有しています。		本人、家族と話し合いを重ね、重度化した場合の対応に取り組んでいきたいと考えています。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ること、出来ないことの見極めは、しっかりと行い、取り組んでいます。		話し合いを重ね、チームでの支援に取り組んでいきたいと考えています。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の場合は、家族と連携して、情報交換を行なっています。		家族、移転後の施設等との話し合いを行い、住み替えによるダメージの軽減に努めたいと考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーは尊重しています。個人情報、守秘義務によって守られています。		プライバシーの確保は徹底していくよう考えています。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が伝えたい内容を考え、お尋ねすることで思いに近づけるよう努めています。本人の希望を受け止めたいという支援でありたいと努力しています。		利用者の希望を汲み取り、自己決定につながるような、コミュニケーションをとっていきたいと考えています。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしの主役は入居者の皆さんです。そのペースを最優先しています。		一人ひとりが、どのような暮らしを希望しておられるのか、常に考えていきたいと思っています。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれは、大切です。理容、美容は本人の希望に添って支援しています。		身だしなみやおしゃれは、大切です。日々の暮らしの中で、実践しています。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、一日の中で大切な位置づけです。準備、片付けは、出来る人が出来ることを行なっています。食事に振り回されるのではなく、食事を楽しむ暮らしでありたいと考えています。		食事は大きな楽しみのひとつです。1回1回を大切に考え支援したいと考えています。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好は尊重して支援しています。		お祝い事の時、飲めないと言われる方には、ノンアルコールビールを準備するなどして、雰囲気づくりを行い、楽しんでいただいています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	気持ち良い排泄の支援は、重要だと考えています。個々のパターンや習慣をスタッフが共有し、支援しています。		気持ちの良い排泄のため、それぞれのパターンの把握やサインを見逃さないよう、考えています。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は、ほぼ決まっていますが、スタッフの声かけで、皆さん楽しみに入浴されます。家族の面会や外出時は、臨機応変に対応しています。		入浴を楽しんでいただける環境を、スタッフも楽しく考えています。入浴剤や音楽、1対1のおしゃべりは、大切なコミュニケーションの場です。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	気持ちよく休養し、眠れるよう支援しています。		それぞれの休憩や睡眠のパターンを把握し、声かけをおこない、支援しています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴、趣味を尊重しています。何を喜びと感じていただけるか考えながら支援しています。		それぞれが、何に興味があり、何が得意分野か、考えて支援しています。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、本人、家族と話し合い。所持して使えるように支援しています。		お金の所持は、家族、本人との話し合いで決めています。ケースバイケースの対応が必要だと考えています。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や時間帯を考え、戸外で過ごせる時間も大切にしています。		戸外で過ごす時間も大切に考え、実践しています。洗濯物を庭で干したり、庭の犬を眺めたり、爪を切ったり、小さな日常を戸外での活動に考えています。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々の、行きたいところへの外出支援をしています。		それぞれの行きたい所を把握し、少人数での外出として実践しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話、手紙はお願いしています。不定期の電話が何よりの喜びである入居者もおられます。		家族との連絡、手紙や電話は、大きな支えです。尊重しています。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者の家族、友人等の訪問は歓迎しています。毎日のように顔を出し、おしゃべりされる家族もあります。		面会時間を決めず、いつでも歓迎しています。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はあってはならないという認識を共有しています。言葉による拘束にも注意をはらっています。		身体拘束については、これからも勉強していきたいと考えています。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は実施しています。玄関場所はスタッフから遠く、侵入に対する不安があります。鍵がかかっているから、出られないという気持ちにならない、声を掛け合って外出する関係、支援を実施しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーを配慮しながら、所在や様子を把握するよう努めています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人にとって、何が危険な物になるかを、観察して、注意深く見守ることから実践しています。		利用者一人ひとりを、見守ることから、危険な物を見極め、防ぐことを考え実践しています。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止については、常に学び取り組んでいかなければいけないと考えます。		事故防止に関することは、日々、取り組んでいきたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当、初期対応について、定期的な話し合い、研修を行なっています。		今後も、研修を重ねていきたいと考えています。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の非難については、年に1回の訓練を実施しています。		災害対策は、常に取り組んでいきたいと考えています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりのリスクについては、家族の訪問時に話し合っています。		家族との話し合いを大切にして、対応策を考えていきたいと考えています。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調の変化は、速やかに家族に連絡し、受診などの対応を実施しています。		体調の変化は、スタッフ、家族の共有情報として、早期対応を心がけています。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、医師、薬剤師から説明を受け、管理支援しています。投薬後の変化については、医師との連携をとっています。		薬については、常に学んでいきたいと考えています。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防のために、食事、医師との相談、薬、体操などを行なっています。		便秘は、体調悪化の原因になることなので、便の状態、回数ともに把握し、取り組んでいきたいと考えています。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔清掃は、毎日一人ひとりに合った方法で実施しています。		歯科医と連携して、口腔内の清潔を保持していきたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と飲み物が、それぞれの必要なだけ摂取できるよう努めています。食事はバランスを考え、提供しています。		食事量や水分量は、大まかに把握し記録しています。体重の増減も頭において、支援しています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは予防接種を受けていただいています。手洗いの励行、皮膚病があれば、受診、薬での治療を行い、他の入居者に感染しないよう、入浴の順番などを配慮しています。		感染症の予防には、対応していきたいと考えています。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、必要な物を必要なだけ、購入しています。新鮮で安全な食材使用と管理に努めています。		食材や調理用具等の使用と衛生管理には注意を払っています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい環境を工夫しています。玄関や庭は、季節の花で満ちています。		玄関周りは、明るく、入りやすい雰囲気となるよう工夫を重ねていきたいと思います。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、清潔で明るく穏やかな環境になるよう工夫しています。花や絵、写真、書、生活感を大切にしています。		共有の空間は、ゆったりと時間の流れる、穏やかな場所になるよう工夫を重ねていきたいと考えています。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ベンチがおいてあります。好きな場所に腰掛け、一人になったり、しゃべったりできる工夫をしています。		共有空間は、いつでも、誰とでも過ごせる場として、居心地よく工夫を重ねていきたいと考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人、家族と話し合い、落ち着いて過ごせる場所になるよう工夫しています。お位牌や写真を飾り、お茶を供える入居者もおられます。		居室は、居心地の良い休憩場所として、また家族との憩いの場として工夫を重ねていきたいと考えています。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、温度調節は配慮しています。		換気、温度調節には、配慮しています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差がなく、廊下の手すりが、入居者の動きやすさを助けています。一人で動ける場所の提供になっています。		安全な環境作りには、配慮、工夫をしています。踏み台や手すり、動ける範囲が広がっています。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している			
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に面した濡れ縁で、洗濯物を干したり、降りて花をながめたりできます。楽しんで頂けるよう活用しています。		建物の外周り、濡れ縁は好きな花を楽しめる環境になるよう考えています。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

皆さんに楽しく笑っていただける時間を、日常の中にできるだけたくさん見つけていきたいと考えています。